

重点事項	評価内容	評価の観点		担当	評価(昨年度同時期)	総合評価	改善策							
		評価方法	評価基準											
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現	まとめ、振り返りのある授業を行っている		研究推進チーム・研究推進チーム	・教師アンケート ア+イ 77.3% 判定C  ・生徒アンケート ア+イ 97.1% (95.7%) 判定A	B	まとめの後に本当に自分の力で解くことができるか、自分の考えにどのような変容があったか振り返る時間を確保していく。							
		根拠・理由をもとに考えを書いている						・教師アンケート ア+イ 90.9% 判定A  ・生徒アンケート ア+イ 85.1% (94.2%) 判定B	B	正答する際に必要となる条件や事柄も明示するように心がけていく。				
		授業の中で学び合い活動をしている									・教師アンケート ア+イ 90.9% 判定A  ・生徒アンケート ア+イ 96.3% (97.7%) 判定A	A	学び合い活動をするための目的が曖昧という課題を改善していく。	
		ICT機器を活用した授業をしている												・教師アンケート ア+イ 77.3% (95.8%) 判定C
	学習規律の徹底	授業の約束4か条を守っている			学習基盤チーム	・教師アンケート ア+イ 94.3% 判定A  ・生徒アンケート ア+イ 92.3% (94.1%) 判定A	A							
		合格の取組	英語検定合格率					1年5級以上 6人 (10人) 2年4級以上 4人 (8人) 3年3級以上 0人 (21人) 合格率 3.9% (12.0%)	/	夏休みに単語リストを配布し、練習を行った。英検前にスペリングコンテストを行い、語彙の定着につなげる。3回の受験機会のうち、2回目を全員受験とし、家庭学習や授業冒頭の時間で基礎・基本の定着を図る。				
家庭学習の取組	家庭学習目標時間の達成率		・教師アンケート ア+イ 86.4% 判定B ・生徒達成率 1年 平日82% 休日62% 2年 平日48% 休日44% 3年 平日48% 休日49% 全体 平日59.3%(57.7%) 休日51.7% 判定C ・保護者アンケート ア+イ 34.0% 判定D	C		震災による個別特有の事情を考慮するため、達成率が低い生徒を中心に個別に働きかけていく。								
	豊かな心	清掃活動への取組					無言で清掃に取り組んでいる		生徒指導部	・教師アンケート ア+イ 90.9% 判定A  ・生徒アンケート ア+イ 87.0% (88.6%) 判定B	B	二学期初めに、清掃のねらいとやり方を全教職員・全校生徒で再確認する。まずは、時間いっぱい取り組むよう指導していく。また、ふりかえりでがんばりを認める言葉かけをする。		
委員会活動や係活動に意欲的に取り組んでいる			・生徒アンケート ア+イ 96.8% (97.3%) 判定A	A		さらに主体的に取り組めるよう、取り組みの目的意識と振り返りを充実させていく。								
ヘルメットの着用		ヘルメットを着用している					・教師アンケート ア+イ 90.9% 判定A  ・生徒アンケート ア+イ 99.1% (97.6%) 判定A	A		顎ひもを締めることを重点とし、粘り強い声かけを継続し、集会での啓発を強化する。				
	信頼される学校	授業・行事の公開と周知	ホームページを見ている		・保護者アンケート ア+イ 62.2% (60.6%) 判定C	C			こまめな更新を行ったり、行事アルバムを作成したりして、周知に努めていく。					
勤務負担の軽減			教職員の働き方意識改革	1ヶ月の時間外勤務時間が80時間を下回る割合			・教師アンケート ア+イ 81.8% 判定B  ・生徒アンケート ア+イ 93.5% (95.3%) 判定A	B		挨拶の良さ・必要性を教師それぞれの言葉で語り続ける。				
	ア 90%以上 A...ア イ 80%以上 B...イ ウ 50%以上 C...ウ エ 50%未満 D...エ			80時間以上超過 4月 5人 (1人) 5月 3人 (5人) 6月 3人 (1人) 7月 0人 (2人) 89.8% (91.6%)	B	新年度の開始から部活動大会までの期間で超過勤務が増えた。部活動では、震災により地域移行が進まず、練習場所への移動も超過勤務の原因として考えられる。2学期からは体育館が使用できるようになり、改善が見込まれる。								